

語り手は〇〇！？

非日常の感覚を味わいたい時、動物や無機物といった人間以外の視点で物語が進む本を読んでみてはいかがでしょうか？今回は、人間以外の何かが語り手だからこそ、視点の違いを楽しめる物語を紹介します。

1冊目は、ヒロモト/著『猫探偵はタマネギをかじる ニャーロック・ニャームズの名推理』です。

この本の語り手は、猫のニャトソンです。彼が語るのは、友人でありパートナーであるニャーロック・ニャームズの名推理。鯉が丘という町で出会い、ハリモトフジンのもとで同居することになった二匹。探偵の仕事をしているというニャームズに連れられて、町で起こる事件に関わっていくようになります。私たち人間にとっては何でもないことでも動物たちにとっては複雑怪奇なことはいっぱい。猫の視点で語られるユーモアたっぷりのミステリーです。

2冊目は、伊坂幸太郎/著『ガソリン生活』です。

こちらは車視点で語られる、緑のデミオとその所有者・望月家の物語です。弟と一緒にドライブをしていた良夫は、停車中に突然乗り込んできた元女優を成り行きで目的地まで送り届けます。しかし、その翌日彼女が事故死したというニュースが。事故の直前に車に乗せていたことがきっかけとなり、望月家は厄介ごとに巻き込まれていきます。

車内や車同士、周辺での人の会話で物語が進んでいくので、読んだ後はつい、道行く車や普段運転している車のモノローグや会話を想像してみたくなる一冊です。

3冊目は、森沢明夫/著『ふくぷく』です。

この本の語り手は、金魚です。頭の上に雪が乗っているみたいに白い斑点があることからユキと名付けられます。金魚すくいではイヅミに引き取られてから、引っ込み思案で恋に臆病な彼女を金魚鉢から見守る日々を過ごしていました。そんなある日、イヅミに新たな男性の存在が感じられるように。外での彼女の様子はわからないため、やきもきするユキでしたが…。一つ屋根の下で暮らす一人と一匹の切なくも温かい物語です。

図書館にはこの他にも、様々な視点で楽しめる物語がたくさんあります。ぜひ図書館にお越しください。